



2023年8月発行

悪霊を追い出すキリスト

突然、彼らは叫んだ。「神の子、かまわないでくれ。まだ、その時ではないのにここに来て、我々を苦しめるのか。」

(マタイによる福音書8章29節)

主イエスと弟子たちが舟に乗ってたどりついた地は、ガリラヤ湖の東側の地で、ガダラ人という異民族の住むところでした。すると悪霊に取りつかれた強暴な二人の男が、墓場から出て来て道をふさぎました。

悪霊に取りつかれたというと、現代では精神の病気であると考えられることが多いですが、ここには精神の病気だけでは片づけられないことが書いてあります。突然、彼らは叫びました。「神の子、かまわないでくれ。まだ、その時ではないのにここに来て、我々を苦しめるのか。」

いったい精神の病気に苦しむ人が、イエス様を見たとき「神の子」と叫ぶ、そんなことってあるのでしょうか。それまで二人はイエス様と会ったこともありません。これは精神の病気ではとうてい説明が出来ません。そこには得体の知れない霊の力が、働いていたのです。

普通の人間なら、そこに神の子がいると教えられても、ああそうですかとなくなってしまうかもしれません。しかし悪霊にとって、これほど大変なことはありません。彼らはどんな人よりも先に神のみ子の到来を察知します。だから、恐慌をきたしてしまったのです。

「まだその時ではないのに」、それは世の終わりの時のことです。この世界にいつか終わりが訪れ、神が直接統治なさる世界が来ることを悪霊も知っており、恐れていました。それは当然のことで、世の終わりとは自分たちが滅ぼされる時だからです。彼らは言うのです、「神の子よ、あなたが出て来るのは早すぎる。あなたは世の終わりの時に来るはずではなかったのか。それがなぜ、こんなにも早く来て、我々を苦しめるのか」と。

実は、ここで悪霊は思いちがいをしていた

のです。「まだ、その時ではないのに」。悪霊は、世の終わりの時はまだるか先のこと、自分たちは安泰だと思っていました。しかし、それは甘かったのです。世の終わりの時は始まりました。

イエス・キリストがこの世界においてになった時から世の終わりの時が始まったのです。もちろん、それ以来2000年がたった現在でも世界は終わっていませんが、それは世の終わりのプロセスが進行中ということでありまして、この世界はいつか必ず終わりを迎えます。イエス・キリストによって始まった新しい世界は、さまざまな紆余曲折を経ながらも、いつの日か、主イエスが再臨され、新しい世界が完成する時を目指して今も進行中なのです。それは、主イエスが再び来られなければ、決して終わることのない悩みと悲惨の中に世界はあるからです。

ここで二人の男にとりついた悪霊は、主イエスの前で、世界の最終的な終末を待たずに降参し、白旗を上げました。彼らは「我々を追い出すのなら、あの豚の中にやってくれ」と願いました。主イエスが「行け」と言われると、悪霊は二人の男の中から出て豚の群れの中に入りました。ところが悪霊の力は、彼ら自身が考えるよりはるかに破壊的なものであったので、豚はパニックとなり、なだれを打つように崖から湖の中へと落ちて行きした。豚が死ぬと共に悪霊も滅びました。二人の男は正気を取り戻しました。

主イエスは悪霊を二人から離れさせる時に呪文を唱えるのでもなく、またお札を貼ったりもしません。主イエスの武器は「行け」というただ一言のみ言葉でした。

聖書が語る主イエスの悪霊退治は決して魔術ではありません。今も主イエスに従う人のまわりで、悪霊が暗躍している可能性があります。しかし私たちは迷信を信じているわけではありません。私たちのたたかひの準備は祈ることです。武器は主イエスから与えられたみ言葉そのものです。

(2023年7月9日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊